

中野区における職員の働き方改革 の先行事例と今後の展開について

～DX推進に伴う、仕事の仕方改革～



中野区総務部人材育成担当課長

石橋 一彦

1 背景・経緯

- 2024年春、新区役所完成・移転予定
- ここをDX元年とすべく、これまでハード・ソフト両面で準備を進めている。
 - ・ 新区役所整備担当課の設置（2017年度）
 - ・ DX推進室の設置（2022年度）
- 新区役所移転を契機としたDXの推進とあわせて、職員の働き方や政策形成のあり方を変えていく。

2 新区役所で目指す働き方のコンセプト

○セキュリティの向上

- ・ 動線の分離、セキュリティラインの設定

○スペースの効率利用

- ・ 各スペースの集約・共有化

○職員の創造性・生産性向上

- ・ 打ち合わせスペースの拡充
- ・ コミュニケーションの最適化

→ ユニファイド・コミュニケーション

3 働き方改革に向けた取り組みのキーワード

○ペーパーレス

○ユニファイド・コミュニケーション

・ 業務用チャットやWEB会議等、

多様なコミュニケーションツール

・ テレワーク（在宅勤務、モバイルワーク）

○統合型GIS

・ EBPM、マーケティング指向の政策形成

4 テレワークの推進

- システム、機器の整備・導入
- 運用ルールの構築、人事制度の変更
- 人材育成
 - ・ ICTリテラシーの強化（若手職員を中心に底上げ）
 - ・ 意識改革（特に管理職層）
 - ・ 仕事の進め方、考え方の変革
- ワークライフバランスの実現、アウトリーチ機能の強化、
非常時の業務継続体制の構築

5 仕事の仕方改革

- 統合型GISの整備・活用を契機として、EBPMを含めたマーケティング指向の人材を育成する。
- DXの推進により、不断の業務改善が進み、業務・組織が効率化・高度化することで、行政コストの低減、区民サービスの質の向上が実現する。

→ DX推進を通じて、仕事・組織のあり方を変えていく。